

研究課題名「パーキンソン病における痛覚閾値および痛覚関連誘発脳電位の検討」に関する情報公開

1. 研究の対象

2006. 1. 1～2018. 12. 31 の間に当院で筋電図検査を受けられた方

2. 研究目的・方法・研究期間

目的

パーキンソン病では運動障害の他に非運動症状といわれる様々な臨床症状があります。冷たい水で洗い物をしていても平気であるとか、骨折に気が付かなかつたなど、痛みに関して鈍感になることが経験的に知られています。しかし、そのことはしっかりと証明はされていませんし、その原因もわかっていません。痛み鈍感ということは体に対する危害刺激をうまく感じないことですので、体にとって都合が悪いといえます。この症状の実態を明らかにすることで、その原因の究明、日常生活に対する注意の喚起につながると考えられます。この研究はパーキンソン病の患者さんを対象に、感覚、特に痛み感覚に関する実態を把握し、正常健常者の方、ならびに運動ニューロン病の可能性のある患者さんの方と比較することを目的としていますが、末梢神経に障害があるかないかで得られるデータに違いを生じる恐れがあるために、末梢神経における誘発筋電図のデータも解析に用いています。しかし疾患によって得られる結果が異なるために、本研究を実施するにあたって、パーキンソン病や運動ニューロン疾患以外も含めさまざまな疾患におけるデータの比較が有用となり、そのためのデータ収集ならびに分析、比較を目的とします。

方法

2006年1月1日から2018年12月31日までに当院で筋電図検査を行った検査データを後方視的に各種疾患において得られるデータを検討し疾患における違いを比較、分析します。分析には正中神経、尺骨神経、脛骨神経、腓腹神経での検査データを用います。

研究期間

実施承認日～2021. 3. 31

3. 研究に用いる試料・情報の種類

以下の診療情報を使用します。

ID、発症年齢、初発症状、発症からの期間、嗜好歴(喫煙および飲酒の有無)、合併症、既往歴、家族歴、服用薬剤名、身長・体重、神経所見、Unified Parkinson's disease rating scale (UPDRS)、痛覚関連誘発脳電位検査結果、筋電図、認知機能テスト {Mini Mental State Examination (MMSE)、Frontal Assessment Battery (FAB)、Japanese version of the Montreal Cognitive Assessment (MoCA-J)など}、Odor Stick Identification Test for the Japanese (OSIT-J)、MIBG 心筋シンチグラフィ、頭部 MRI、脳血流 SPECT、ドパミントランスポーターシンチを含む、これまでの診療から得られたすべての情報。

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

愛知県名古屋市昭和区鶴舞町 65 番地 052-744-2604 検査部 中村 友彦

研究責任者：

名古屋大学大学院医学系研究科神経内科学・教授・勝野雅央